

澤上 これは簡単な話で、さつきの岡本さんの話につながるんですが、預貯金と投資と比べるとわかります。預貯金は丸投げ、無責任です。銀行、郵便局へお金を持って行って、元本が安全だと。利息だけちょうだい、あとは好きにやっつけていいよと。で、銀行は不良債権ばかりになりましたね。

あるいは郵便局だってそうです。国庫へ入って国庫納付金の山です。やめてくれと言わない、丸投げだから。ところが投資は、自分のお金を自分の意志や価値観や夢に向かって投入していくんです。良い世の中をつくろうと、こういう社会を子どもや孫に伝えると。

それがなかったら投資できないんですよ。そういう美意識や価値観をしつかり持てば持つほど、経済と違うのはより大きなお金が流れ込む方向で発展するんです。そこにお金を投資をする、あるいは企業経営、あるいは生活がある。三位一体なんです。何でも

いいから儲かればいいということをやっていると、まいいいするだけなんです。

岡本 個人で1500兆円の資金があるわけで、個人投資家が少しでも自分のそういう志とか意図を込めて、そのお金を投資に向け出したときに、すごいことになると思うんですね。

澤上 そのときに民度が問われますよ。目線が低かったら、パチンコ屋ばかりできるんですよ、儲かりやいと。そのときに目線が問われるんです。

岡本 そこが品格なんです。
澤上 品格ですね。

今、タンス預金を入れて五四％ぐらいが預貯金で、それと一四％ぐらいが生命保険です。合わせて六八から七〇％弱。投資に回っているのは一三から一四％です。

で、預貯金は三年定期で年間利回りは〇・五五％でしょう。

保険は保障と運用で抱き合わせしています、運用部分でだいたい一・三％の予定利率です。それで満足している人はい

いかもしれないけど、例えば我々の仲間の「ありがとうファンド」というのは年一二％とかで回っているんですよ。どっちがいいかなあと（笑）。

日本全体がいま 思考停止の中で……

——日本人は安心感を求める民族だと言われます。しかし気付いてきた。ではそのときどれぐらいを投資に回せばいいか、どうアドバイスしますか。

澤上 これは慣れです。ベストのアドバイスというのは、それは岡本さんが専門でできますけれど。

岡本 やっぱ最初からブルにドボンと飛び込むと心臓麻痺を起こしますので、足先から少しずつ入っていく（笑）。最終的にはあるべき姿に行くにしても、だんだん慣らしながら行かないといけないですね。

—— バブル崩壊で十一年間で300兆円、家計が利子収入を失っているわけですね。

澤上 失っているのではな



く、奪われているんです。だから思考停止しているんです、日本全体が。

年金の運用で見ると大変なんです、ゼロ金利というのは。結果的に年金運用はガタガタになるし、家計利息も毎年29兆円ぐらいい失った。これを家計で受け取って消費に使っていたら、これだけで三％成長ですよ。それを考える力がないわけです。

岡本 まさに国任せ、銀行任せで何とかなってきた。

だけど変わるものは変わるわけです。これは重力の法則みたいなもので、逆らって何かをや